

事業の背景・目的

友ヶ島では、昭和30年頃、外国産由来のタイワンジカ交雑種10頭が観光目的で導入され、以降定着し、現在は100頭程度にまで増加している。平成28年7月に、シカの生息分布域外とされている大阪府岬町深日においてメスジカ1頭が捕獲されDNA分析を実施した結果、タイワンジカとニホンジカの第1世代交雑種であることが示唆された。本州側において、ニホンジカの生息地が拡大している現状において、このままこの問題を放置すれば、外来シカとニホンジカとの交雑（遺伝子攪乱）が進行し、紀伊半島の生態系及び農林業に多大なる影響を及ぼす恐れがある。



友ヶ島のタイワンジカ

事業の内容

関係機関の連携体制を構築し、防除に対する地域住民の合意形成を図った上で、防除の方針・計画を定めた。
(事業内容)

- (1)島内での試験捕獲調査及び遺伝子調査
- (2)植生への影響把握調査
- (3)関係者間の合意形成・連携体制の整備
 - ①地元関係者へのヒアリングの実施
 - ②観光客へのアンケートの実施
 - ③関係機関との意見調整
- (4)防除方針・計画策定



得られた成果

- 【事業の成果目標】 ①本州側とのニホンジカとの遺伝子攪乱の防除、②友ヶ島の生物多様性と本来の自然環境の回復
- 【活動継続の見通し】 策定した防除計画を元に防除対策を実施する。
- 【事業終了後の展開】 各機関が連携し、継続してモニタリングを実施する。